

臨床研究のお知らせ

筑波大学附属病院では、「炎症性腸疾患」で困っている患者さんの診断法、治療法を向上させるため、他の複数の施設とともに下記の臨床研究を行いたいと考えています。研究を行うにあたっては、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。もしも、下記の研究内容に該当すると思われる方で、ご自身の診療情報が用いられることにご質問などのある方やご同意をいただけない方は、下記の連絡先にご連絡ください。

1. 研究課題名

炎症性腸疾患における免疫受容体の発現解析

2. 対象患者：下記のいずれかの方が対象となります。

- ・2018年4月から2021年4月までに筑波大学附属病院でクローン病、潰瘍性大腸炎、炎症性腸疾患を伴わない大腸癌の手術を受けられ、標本の同意がなされている患者さん。

3. 調査の目的

対象となる方から採取され、保存されている手術標本の免疫受容体の解析を行い、重症度を知る新たなマーカーや治療標的としての有用性について検討します。

4. 調査の方法

あなたの診療情報をカルテの記録から収集させていただきます。この調査のために新たな処置・検査等は行われません。そのため、調査に参加することにより特別に負担が増えるものではありません。

研究期間は、倫理審査委員会の承認後、2023年9月30日までを予定しています。

あなたの診療情報は、下記の項目を収集させていただきます。

- ・年齢、性別、病名、病型、治療歴、病理所見、血液検査所見など

また、保存された手術標本から下記の項目の免疫組織染色（多重免疫組織染色を含む）、in situ hybridization 法による発現解析。

- ・CD226, TIGIT, CD96, CD155, CD300a, CD300c, Allergin-1, Clec10a, Asgr1, Asgr2, Clec12b などの免疫受容体

5. 調査に参加することによって得られる効果と予測される結果

予想される効果は医学の進歩への貢献です。最終的には、あなたがこの調査に参加していただいた結果が、将来の炎症性腸疾患の患者さんの診断、治療に有益な情報を提供していただくことになり、診断、治療に大変役立つことになると考えられます。

6. 調査で得られた情報の開示・提供について

この調査の結果は、学会などでの発表、論文として医学雑誌などへの発表に使用される予定です。

個々の患者さんに結果をお知らせすることはありませんが、開示請求をいただければ、対応させていただきます。

7. 研究費用・利益相反

この研究は、通常の保険診療内で行われます。それ以外の費用に関しては大学からの運営交付金を使用いたしますので、あなたの費用負担が増えることはありません。また、謝金などのお支払いもありません。

8. 研究機関名および研究責任者名

筑波大学 医学医療系 教授 渋谷彰

9. 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

10. 本研究に関する連絡先

この研究でわからないことや心配なことがありましたら、いつでも担当医師または以下の問い合わせ先におたずね下さい。

【問い合わせ先】筑波大学 医学医療系 免疫学 渋谷 彰

TEL 0298-53-3281 (平日、午前9時～午後3時まで)